



地域おこし協力隊と支える人々 ～地域の応援が原動力～



アプリでも【市報たいない】
を配信しています



胎内市公式LINE



特集

② 地域おこし協力隊と支える人々
～地域の応援が原動力～

⑧ 夏のワクワクイベント情報



地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に生活の拠点を移し、一定期間、地域に居住して、地域活性化や地域の課題解決に向けた活動（地域協力活動）を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。令和6年度時点では、全国で7,910人の地域おこし協力隊が活動しており、現在胎内市では、5人の隊員が活動しています。

それぞれの地域・活動分野で、自らの経験と地域の魅力を活かした活動に取り組んでいる協力隊の皆さんを紹介します。

地域おこし協力隊 導入の効果

～地域おこし協力隊・地域・
地方公共団体の
「三方よし」の取組～

- 斬新な視点
（ヨソモノ・ワカモノ）
- 協力隊員の熱意と行動力が
地域に大きな刺激を与える

地域

地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を
活かした活動
- 理想とする暮らしや
生きがい発見



地方公共団体

- 行政ではできなかった
柔軟な地域おこし策
- 住民が増えることによ
る地域の活性化

活動内容

鼓岡・大長谷地区の交流促進担当として、ものづくりを通じて、人と人との交流を育む活動を行っています。主な活動としては、地域の野草を使用したお茶会の開催や、地域食材を使用した料理教室、地域資源を使用したワークショップなどを開催しています。

地域への想い

日々相談できる環境があることや、さまざまな方に支えていただいているおかげで活動できていることを強く感じています。集落の皆さんに相談すると、親身になって耳を傾けてくださり、「こんな方法もあるのでは」と前向きなご助言をいただく場面も多く、非常に心強く思っております。今後も集落の皆さんに「楽しい」と思ってもらえるような活動を続けていきたいと思っています。



一番の思い出

協力隊に着任し、初めて鯉江集落の皆さんで行った『鯉江クッキング-笹団子・ちまき作り-』が印象に残っています。集落のお父さん、お母さん方にご協力いただき、笹やよもぎを摘むことから始め、最後は皆で作った笹団子・ちまきを美味しくいただきながら、交流を深めました。協力して1つのものを作るという作業が本当に楽しく、また、『食やものづくりの楽しさ』を皆さんと共有することができて、胎内市に来てよかったと特に感じた催しでした。

01

えいの
永野くみこ
久美子
隊員





活動内容

坂井集落で農業（稲作、畑作等）を行いながら、伝統芸能である坂井神楽や地域のサロンに参加し、子ども会のイベント企画・実施、里の駅いちべえの販促活動、狩猟免許を活用した有害鳥獣駆除の活動等を行っています。



今後の活動に向けての抱負

「里の駅いちべえ」関連の事業として、胎内市産のさつまいもである「べにはるか（はるかなた）」を中心とした、やさしいもの移動販売を計画中です。胎内市の子どもやお母さんたちに笑顔を届けることを生業にしていきたいと思っています。



地域への想い

中山間地域での農業は、鳥獣害のリスクも高く、一枚一枚の田んぼが小さいため、多くの時間と労力を要する大変な仕事であると感じています。しかし、地域の農家の皆さんが長年にわたり、それらの困難に向き合いながら農業を続けてこられたことに、あらためて敬意と感謝の気持ちを抱いており、私自身、この地域の農業を未来につなげていくために、どのような形で力になれるかを考えながら、日々活動しています。農業とそれ以外の生業を掛け合わせることで、田舎でも豊かに暮らすことができるということを伝えることで、農業や田舎生活に興味はあっても、生活のことを考えて、移住を躊躇している方に、一歩踏み出してもらおうキッカケになればと考えています。



活動内容

移住促進の取組を軸に活動しています。胎内市移住ポータルサイト“ゆうゆう”の運営では、移住検討者の知りたい情報が載っているサイトを目指し、胎内市での暮らしや移住者の声の発信をしています。また、鼓岡集落の方と協力しながらマコモダケの植え付け体験などの取組や、集落行事等を伝える広報誌の発行も行っています。



地域への想い

さまざまな活動を行う上で、色々な方の協力が不可欠だと強く感じます。昨年行った移住者交流会では、開催に当たって多くの方のお力をお借りし、1回目は本町通りのまち歩き、2回目はおむすびと豚汁作りを行いました。手を貸してくださる方のおかげでさまざまな活動ができています。

また、鼓岡集落の皆さんには、1人で胎内市に引っ越してきた私を気にかけていただいて、野菜やおかずをお裾分けいただいたり、夕食に呼んでいただいたり、挙げればきりがなくらい良くしていただいています。鼓岡の皆さんに「私が来て良かった」と思ってもらえるような活動をしたいと思っています。

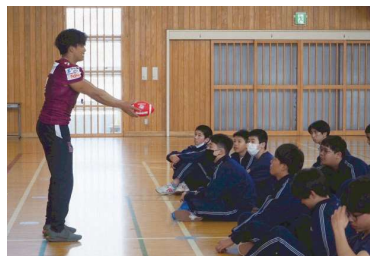


ヨソモノから見た胎内市の魅力

東京で生まれ育ったので、星空が綺麗なこと、山や海が近くにあることは新鮮で魅力に感じます。また、ヨソモノを温かく受け入れてくださる方も多く感じしており、そういった風土があることも魅力だと思います。

活動内容

アメリカンフットボールが起源のスポーツ”フラッグフットボール”を学校での授業を中心に体験してもらったり、大人向けには運動教室やトレーニング教室を通じて、スポーツの魅力、運動の楽しさを胎内市の皆さんに伝えています。



ヨソモノから見た胎内市の魅力

もはやヨソモノではないと思いたいです（笑）人と人が近い距離にある。誰とでもすぐに対面での会話ができ、コミュニケーションを取ることができる町というのは、とても貴重だと思います。「どこかに行けば誰かいる」当たり前かもしれませんが、移住してきた私にとっては、大変魅力的なものと思っています。

小川 悠樹 隊員



活動を通して感じること

このスポーツの特徴でもある“コミュニケーション”の重要性や楽しさをどの年代でも感じてもらえている印象です。初めてのスポーツは、素直な気持ちをもって積極的に取り組むことが競技のレベルアップにつながるのですが、特に、市内の子どもたちは、周りを巻き込んで成功に向かって取り組んでくださるため、指導する側としても充実した時間を過ごさせていただいています。また、先生からも“子どもたちのやりたいことを尊重したい”という想いを感じています。自主性を重要視し、子どもたちの隠れた魅力を引き出せるフラッグフットボールは、胎内市の学校にぴったりだと思っています。

活動内容

今年の4月に地域おこし協力隊に着任し、開志国際高等学校や新潟食料農業大学の学生の地域活動のサポートや、地域おこし協力隊のSNSを通じて、学生活動の様子などの情報発信を行っています。

活動を通して思うこと

活動をしていて、学生の元気なところや、やりたいことがたくさんあって、もっと地域の人と関わってみたい！と思っている学生が多いことに驚きました。そんな学生のことを精一杯サポートできるように活動していきたいです。

竹林 莉菜 隊員



今後の活動に向けての抱負

今後は、高校生や大学生の「やりたい」を叶えるだけでなく、学生と地域をつなぐイベントの開催もしていきたいと思っています。胎内市に来てまだ3か月ですが、校内ですれ違ふといつも元気に挨拶してくれる開志国際高等学校の生徒、サークル活動に誘ってくれたり、やりたいことを楽しそうに話してくれる新潟食料農業大学の学生たちと一緒に学んで、体験して、楽しく胎内市で活動できたらと思っています。



地域のお母さん方の希望を形にしようと、料理（欽江クッキング）等を企画し、皆で集まる機会を作ってくれています。何かに取り組む際には、集落の声をよく聞いてくれて助かっています。分からないことはすぐに聞きにくという素直な姿勢が、集落と信頼関係を築いている理由だと思います。



欽江 佐藤さん

集落の色々な行事を地域の皆さんと一緒にやって取り組んでいただき非常にありがたいです。出席率も良いですね（笑）また、集落の記者として、行事や雪下ろしの様子などを記事にして、回覧板で回してくれています。誠実かつ丁寧で、温かく地域の方に接していただいて、重田さんがいてくれることそのものが地域に元気を与え、活性化につながっていると思います。



鼓岡 桐生さん

地域の子どもと大人の『つなぎ役』として頑張ってくれており、私たちも子どもと関わる機会が増えました。祭りの参加者が少なく、困っていたところ、椎谷さんが、子ども会を中心に積極的に声をかけていただいたおかげで、当日は、集落全体で祭りを楽しむことができました。子どもが生き生きと活躍することで、集落全体が賑わい、活気づいてきたように感じます。



坂井区長 坂上さん

フラッグフットボールを体験する総合学習の授業では、小川さんの丁寧な指導のおかげで、興味深く取り組んでくれる生徒が増えてきました。それは、限られた時間の中で、何とか子どもたちに楽しさを伝えようという熱い思いが、生徒にも伝わっているからだと思います。また、授業のあとに生徒たちが小川さんを取り囲む微笑ましい様子も見られました。



中条中学校 佐藤先生・川崎先生

第一印象は、明るく、人を和ませる力をお持ちの方だということでした。実際に、生徒と接する様子を見ていても、生徒たちが「優しくして面白そうな方だな」と感じていることが伝わってきます。すでに生徒からは親しみを込めて「竹ちゃん」と呼ばれており、今後も、生徒のやりたいことや思いを上手に引き出しながら、活動をより豊かにしてくれるのではないかと期待しています。



開志国際高等学校 高橋校長



地域おこし協力隊の受入れは、地域や団体の方々が協力隊を迎え入れて一緒に地域を活性化していきたいという想いと、そこで暮らし活動してみたいという隊員の想いが合致して実現するものです。そして、受入後の双方の良好な関係性の構築が、効果的な取組へとつながっていきます。そうした想いと受入態勢があり、協力隊の受入れを検討してみたいとお考えの場合には、お問合せください。

問合せ 総合政策課 行革協働係（内線 1359）

地 域おこし協力隊の活動の成功の鍵を握っているのは、地域で協力隊を支える人々の存在です。地域住民の皆さんのご協力と応援が、各隊員のさまざまな活動の原動力となっています。各隊員は、地域の皆さんとともに、魅力ある地域づくりに向けて取り組んでいきますので、今後の地域おこし協力隊の活動にご注目ください。

各隊員の活動を紹介中！

Facebook

Instagram

